



石見銀山遺跡から学ぶ文化遺産の調査と保護・活用

法文学部 教授 平郡 達哉

世界遺産石見銀山遺跡は16～20世紀にかけて銀の採掘が行われた一方、鉱山開発による環境破壊を抑える工夫もなされ現在も周囲の自然環境が良好に保持されている。石見銀山遺跡は重要な文化遺産だけでなく、現代の持続可能な社会づくりを考える際に多くの示唆を与えてくれる。

法文学部考古学研究室は2016年から大田市との包括協定に基づいて発掘調査実習の一環として石見銀山遺跡の発掘調査に参加している。石見銀山は歴史・考古学教育の場として鉱山技術や鉱山都市での生活の様子、さらには国際貿易の歴史も学ぶことができる重要な遺跡である。石見銀山遺跡における製錬炉跡や建物遺構などの実態解明に学生が参加することで、江戸時代から近代にいたる時期の先人たちの持続可能な社会づくりの実態に迫りうる教育の場ともなっている。また、文化財調査・保護を担う人材育成の場でもあり、文化遺産の持続的活用や教育の充実を図り島根大学が果たす社会的役割の一翼を担っている。

